

伝教大師一千二百年大遠忌に向け、「不滅の法燈全国行脚」が始まる

令和二年庚子歳あけましておめでとうございます

世界中のどなたもが佳き一年でありますよう、心からお祈り申し上げます。

令和元年の八ヶ月、様々な出来事の記憶を余韻に抱きながら、令和と改まって初めて迎えた元旦、だからではないのですが「一年の計は元旦にあり」の諺が懐かしくも大層身に染みて仕方ありません。元旦にこの一年の計画や心積もりを思い描く際に言う決まり文句であるのはご承知の通りです。言わずもがな何事をも始めるにしつかりとした計画をもつて取り組み当たれとの意はわかっているつもりなのですが、近頃一年の月日の過ぎ往々のがあまりにも早いし慌たしい。な

ので思い描いたことの結果は計画倒れ、中途半端に畢つて後悔する始末であります。いや、世間では「そんな計画立てても最近何が起こるかわからない。行き当たりばつたり」また「臨機応変も又有りなん」との説も有ると聞いて、これまた驚きました。初めから無計画の臨機応変は全く有り得ないし、意気込みや覚悟すら感じられません。

計画が元旦に立てられなかつたとしても、これから取り組もうとする事に「魔事なく遂げるのだ」という強い信念、そしてその後を見据えた夢と希望に思いを馳せるのならば、その都度いいアイデアや趣旨に添う結果が出る。と、己が肝に言い聞かせた元日でした。



発行所
比叡山時報社
□jihoh@delux.ocn.ne.jp
大津市坂本町4220
郵便番号 520-0116
電話 077-578-0001
振替 00970-2-9732
宗教法人延暦寺事務所
定価 1部110円 年1200円

延暦寺広報
比叡山講福聚教会
会報
年度会費(3000円)中に会報(比叡山時報)
購読料を含む。

賀
一
年



こちらから
ご購読は

今年世界が注目するもう一つの長き旅がありました。遙かな宇宙の彼方、小惑星りゆうぐうの探査を畢えた「はやぶさ2」が十二月、六年に及ぶ宇宙の旅から地球に帰還します。世界に誇れる現在までの偉業、そして六年という長期の計画には技術者の並々ならぬ苦労は間違いないでしようし、その基にはこれを担つた宇宙航空研究開発機構(JAXA)スタッフの綿密な計画があり、必ずや成功させるとの信念があるからに他なりません。

改めて事の始めの重きを実感すると共に、今年の師走帰還の日を楽しみにして

百年大遠忌を迎えます。それを前に今年は全国都道府県からの天台宗寺院が教区報恩法要を奉修するのを始め、最澄さまの魅力を通して小学生から大学生、そして一般の方々と交流する機会と場づくりを開いていく「伝教大師最澄1200年魅力交流」の取り組みの一つ、「不滅の法燈全国行脚」が四月二日午後一時、四基の灯籠に分灯され、四地区的コースに分かれて法燈行脚がスタートします。千二百三十余年前、比叡山に始まる新しい時代への導きの燈として灯された「不滅の法燈」は、仏法の尊さが込められた燈であると共に、伝教大師最澄さまの他者を勞り思ふ慈しみの心が込められた被災地などに「己を忘れて他を利用」、「能く行い能く言う」の劳りの手と心が更にさらに向けられ、数々の魅力交流が出来ることを願うばかりです。行脚の期間は折しも今夏開催される東京オリンピックの聖火リレーではあります

が、北海道から沖縄までの各地を一年二カ月かけて巡る旅です。

今年は伝教大師最澄1200年魅力交流の開催年で、比叡山時報社はこの機会を利用して一般の方々と交流する機会と場づくりを開いていく「伝教大師最澄1200年魅力交流」の取り組みの一つ、「不滅の法燈全国行脚」が四月二日午後一時、四地区的コースに分かれて法燈行脚がスタートします。千二百三十余年前、比叡山に始まる新しい時代への導きの燈として灯された「不滅の法燈」は、仏法の尊さが込められた燈であると共に、伝教大師最澄さまの他者を勞り思ふ慈しみの心が込められた被災地などに「己を忘れて他を利用」、「能く行い能く言う」の劳りの手と心が更にさらに向けられ、数々の魅力交流が出来ることを願うばかりです。行脚の期間は折しも今夏開催される東京オリンピックの聖火リレーではあります

旅の成功を願う



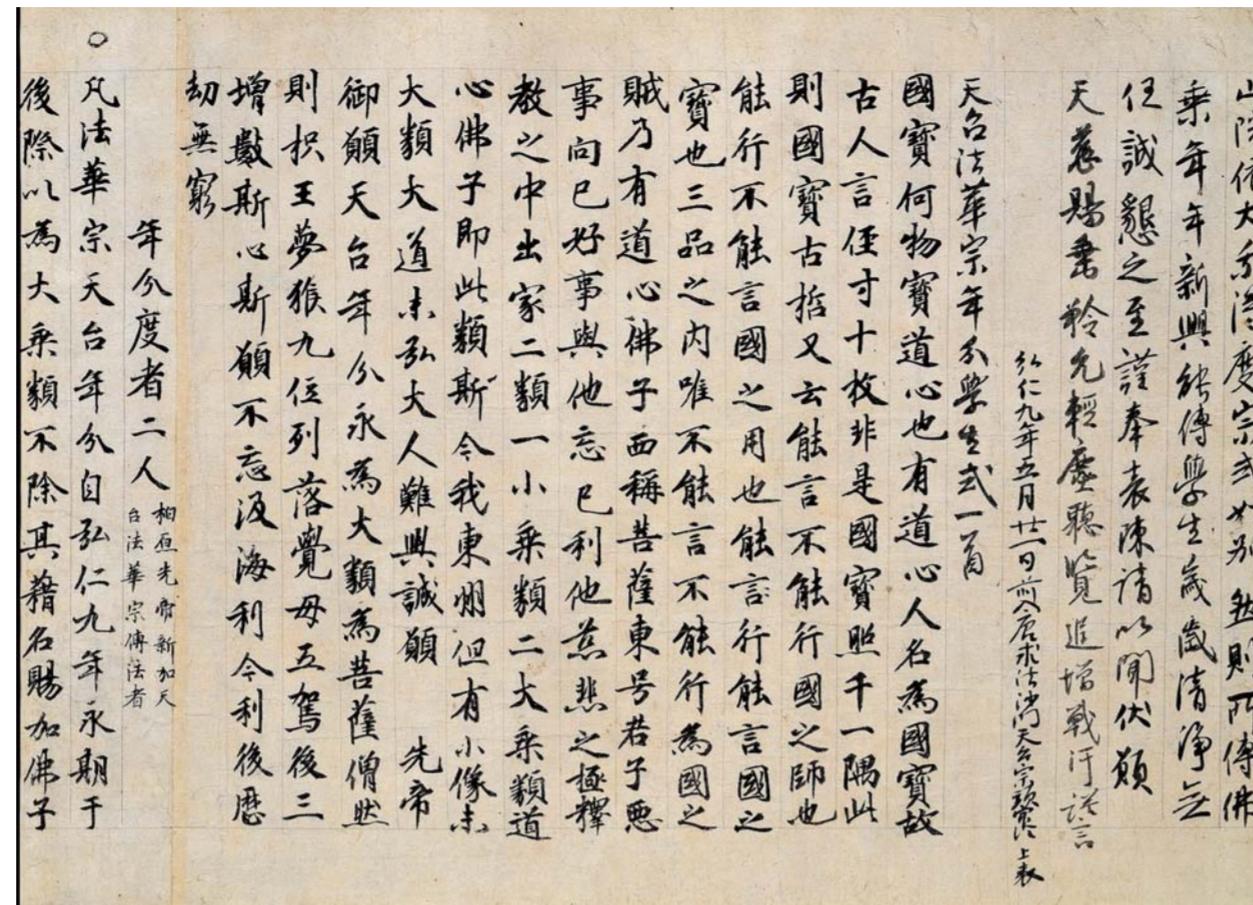
『天台法華宗年分學生式』(国宝・延暦寺蔵)



昨年より公演中の「スーパー歌舞伎II 新版オグリ」の一場 撮影斎藤義弘

2012年6月 鹿治郎を改め四代目市川猿之助を襲名 第59回芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞 「猿之助四十八撰」を中心として、スーパー歌舞伎を新たに展開する

市川猿之助氏「山家学生式」に想う



『天台法華宗年分學生式』(国宝・延暦寺蔵)

已を忘れるくらいの熱意を 坐して冥するだけでは何も変わらない

國寶何物寶道心也。有道心人名爲國寶故。古人言。任寸十枚非是國寶。照千一隅此則國寶古拾又云能言不能行國之師也。能行不能言國之用也。能言行能言國之寶也。三品之内唯不能言不能行爲國之賊。乃有道心佛子西稱菩薩東号君子。惡事向己好事與他忘己利他慈悲之發揮。教之中出家二類一小乘類二大乘類。大類大通小弘大人難興誠願。先帝御願天台年公永爲大類爲菩薩僧狀。則叔王夢猿九住列落覺母五駕後三增數斯心新願不忘沒海利今利後應切無窮。

年久度者二人。相在先尊新加天台法華宗傳法者。

凡法華宗天台年公自弘仁九年永期于後除以為大乘類不除其籍。石賜加佛子。

市川猿之助(いちかわえんのすけ)

2012年6月 鹿治郎を改め四代目市川猿之助を襲名 第59回芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞 「猿之助四十八撰」を中心として、スーパー歌舞伎を新たに展開する

我が國に限らず、過去の歴史を顧みれば、諂ひの多さは宗教が火種となっています。残念ながら、現代においても、それは変わらない事実であります。ひとひとつ小さな想いやりが、世界和平への確かな救いの道なのです。宗祖1200年の大遠忌を前に、「隅を照らす運動」が世界に広がることを願うばかりです。

私が國に限らず、過去の歴史を顧みれば、神仏は奇跡を行ひ給わず、救いをわれ人類に託されました。決して高邁かつ難解なものではなく、誰もが簡単に実践できる行なのです。神仏に祈りません。まずは身をもつて行つことであります。ひとからといって、この世から苦しみがなくなるわけでも、悲しみが消えるわけでもありません。相変わらず戦争は起こり、災害が襲います。神仏は奇跡を行ひ給わず、救いをわれ人類に託されました。座して冥するだけでは、何とも言ひません。まずは身をもつて行つことであります。ひとひとつ小さな想いやりが、世界平和への確かな救いの道なのです。宗祖1200年の大遠忌を前に、「隅を照らす運動」が世界に広がることを願うばかりです。

その多くは承知のよう日本仏教は、公然と僧侶が妻帯している点からしても、最古の仏教ではありません。しかし、だから間違いたと判断することは、性急に過ぎましょう。視点を変えて、「隅を照らす、これ則ち國宝なり」の思想。結局は思考が一巡して、個人が最大限なし得る可能性を秘めていると思います。仏教徒を自認する者は、此の世の悪を「罪過」として引き受けられるくらいの覚悟があつてしかるべきです。それをなされたのが、伝教大師最澄様でした。どうか皆様、お大師様の尊き教を、今一度、想いを馳せていただきたい存じます。

仏教の役割と仏教徒の覚悟 「一隅を照らす」ととの発見



根本中堂前に建つ「山家学生式」の石碑

宗祖伝教大師は国家有用の人材育成のため『梵網經』にもとづく大乘戒を主張し、南都の旧仏教の制度下から脱して完全に独立するため、比叡山に大乗戒壇の創建を望まれた。そのため大師は、大乗菩薩僧を養成するため『天台法華宗年分學生式』(六条式)、『勸獎天台宗年分學生式』(八条式)として『天台法華宗年分學生式』(六条式)、『勸獎天台成し、嵯峨天皇に提出。これらを総称したものが「山家学生式」と呼ばれるものである。特集では新年を祝うと共に、一千三百大遠忌の前年を迎える「隅を照らす此れ則ち國宝なり」とのみの異なる敷衍を願い、昨年に引き続き、比叡山をよみく愛し天台宗の教えにも詳しい歌舞伎俳市川猿之助氏に、「山家学生式」を「一隅を照らす」として想いを寄せていただいた。

新年の挨拶を申し上げます。令和を迎えたお正月となります。今上陛下の大御内威の下、ますますの四海太平、國土安寧を祈ります。私はまだ、皆様がお健やかであるよう、心よりお祈り致します。

さて、御山に上がるべく、境内のあちらこちらで、「隅を照らす」という標語を見かけますが、この言葉の出典元である最澄様の著された「山家学生式」に見られる思想こそ、われわれ此の世に生を受けた人間が、未来永劫にわたって根本精神としなければならない大切な教えではないでしょうか。

「国宝とは何物ぞ。宝とは道心なり。」これについて思い出すのは、若き日にたいへんお世話をになった薬師の管長・故高田好風師です。折に触れては「仏の教えを易く説いて下さいまことに」とおっしゃっていましたが、当時は生意氣盛りですから、そんな当たり前のことをわざわざ言わなくては分かっていることと、誠に當たりな想いでおりました。やがて歳を重ね、人生の様々な喜怒哀樂を経験する中で、その教えの数々が今更ながら身に沁みて、有り難く感じられる次第であります。好風師の遺された言葉の中に、「永遠なるものを求めて永遠に努力する人を菩薩といふ」があります。お大師様の説かれた道心とは、まさに、この永遠の努力のことなのではないでしょうか。

か。大事なのは目的ではなく、そこに至るまでの道程。今、目的達成の為には手段を選ばずの風潮が強いやうに見受けられます。しかししながら、手段を大切にするのが古来から、日本の姿です。茶道、書道、香道、お茶を一杯喫するだけでも、手間を惜しまず、そこに至る所作を重んじる。「一見、無駄と思われる過程に精神性を見出す。これ则ち、道心に他なりません。そして、「隅を照らす。己の力を限りなくあれ、己のできる範囲で、己の力の限りを尽くす。それには必ず何よりも、自分自身を知らなければなりません。自分が幸せなところに、眞の利他は生まれ難い格言です。蝶燭に燃された灯は、千里微方を照らすことは出来ません。灯火は、ただ足元を照らすのみ。その光が、何千何万と集まつたその時、初めて此の世は遍く仏の光明で照らされることになります。一即多、多即一。そこに立ち現れる華厳の世界。百万巻お写経勧進による伽藍復興に生涯を捧げられた好風師の姿勢つまり、ひとりの大旦那による多額の寄進ではなく、多くの人々が随喜することに最大の意義があるとされた想いが重なります。

根本中堂に輝く不滅の法灯は、不斷に油を注ぎ護り伝えられてきた教えの象徴。それは、

私たちそれぞれが、自身の内に燈るねばならない灯でもあり、その油となるのが「忘己利他」の精神であります。「己を忘れる」といふ句には、少し説明が必要なように思われます。とくに他の精神でもあります。己の力と集まつて少しこの為といえど、自分自身を犠牲にしていくことが、さも美德の如く褒め讃えられます。それが、常に生きています。そこで生じるのは、妬み、嫉妬が存在することでも、それは明らかです。殺されぬ。嘘をつく勿れ。放つておけば、人間は互いに殺し合い、嘘をつくからこそ、戒律が生まれたのでしよう。

他人様のお役に立つ。ひいては、それが自分の幸福となり、喜びである。釈尊が説かれた教えとは、決して高邁かつ難解なものではなく、誰もが簡単に実践できる行なのです。神仏に祈りません。ひとからといって、この世から苦しみがなくなるわけでも、悲しみが消えるわけでもありません。相変わらず戦争は起こり、災害が襲います。神仏は奇跡を行ひ給わず、救いをわれ人類に託されました。座して冥するだけでは、何とも言ひません。まずは身をもつて行つことであります。ひとひとつ小さな想いやりが、世界平和への確かな救いの道なのです。宗祖1200年の大遠忌を前に、「隅を照らす運動」が世界に広がることを願うばかりです。